

み並にその荒均しを行ひ、壁體工事の施行は翌年度に於てこれを爲す見込みである。

3. 修築の効果

本修築工事は前にも述べたる如く今後尙 3 箇年の日子と工費 480 000 圓とを要するのであるが完成の際に於ては、目下縣及び市に於て施行しつゝある本修築計畫以外の諸工事の竣工と相俟つて、直接には本港に於ける荷役能力の増大並に荷役費の輕減を齎し、間接には依つて以て後方地域に於ける生産工場の生産費の低減を招來し、その他産業の發展、並に住民の福利増進上資すること、寔に甚大なものがあるであらう。

田邊港修築工事概要

(本文に就ては會員工學士上田柳一君の勞を煩はしたり、茲に感謝の意を表す。)

1. 箇所名並に工事種類

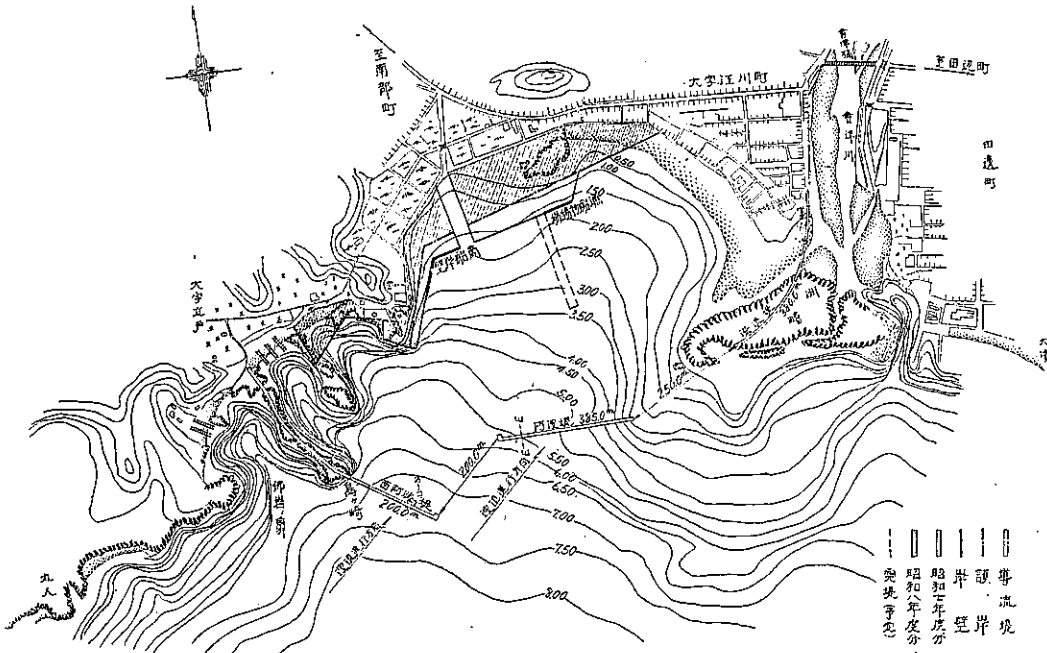
工事箇所 和歌山縣西牟婁郡田邊町江川

工事種類 防波堤築造、護岸築造、浚渫工事、埋立工事

2. 計畫概要

本工事は田邊港内江川浦を中心としてこれに商港並に漁港を築設せむとするものにして先づ字立戸の鳥ヶ崎の先端より落兒岩に向て延長 200 m の防波堤を築造し以て西堤となす。又一方會津川口洲崎の西端より天神崎に向て 300 m の防波堤を築造してこれを東堤となす。東堤により被覆せらるゝ海面は比較的水深淺く海底主として岩盤なるを以て漁船の泊地となし、西防波堤附近は水深大なるを以て商船泊地となすものなり。又港内護岸の築設箇

第 1 圖 田邊港修築工事平面圖



所は 1240 m ありて干潮面以下 1.5 m の水深を有せしめるものとす、而して約 7.77 ヘクタールの埋立地を造りて陸上設備地を得んとするものなり。又會津川は一部分流して新川と稱し、本港内に土砂を流出し居るを以てこの新川を締切るため會津川の導流堤を築造するを要するものとす。

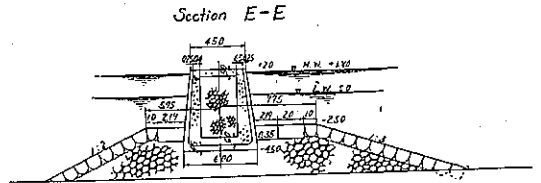
本工事は工費の関係上 60 萬圓を以て第 1 期工事となして當面の緊急工事を施工せむとするものなり。

この第 1 期工事に於ては前述の計畫の内第 1 圖に示す如く兩防波堤全部、東防波堤の一部とし護岸及び埋立はその一部をなすものとす。本計畫による時は港内面積 28.1 ヘクタールを得るものとす。

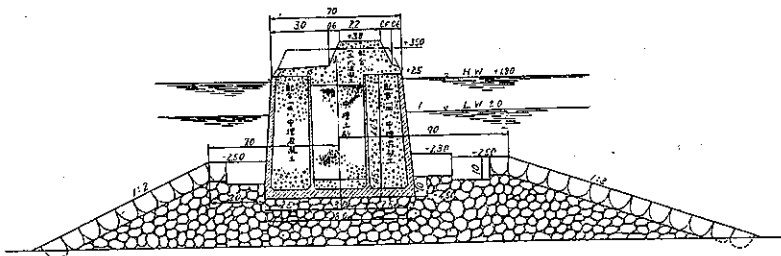
以上計畫の内昭和 7 年度に於ては農村振興巨敷事業として 8 萬圓の決定を得て起工したる 所初年度に於ては殆ど準備時代なるを以て主として機械器具類の整備並に雑工事として潜函進水臺の一部を施工したるものにして本工事としては西防波堤の基礎捨石を延長 900 m 施工したるに過ぎず。

昭和 8 年度に於ては 15 萬圓の豫算を得その工事は、前年度に引続き兩防波堤の捨石工、張石工及び雑工事の

第 2 圖 防波堤横断面圖



第 3 圖 西防波堤 6.5 m 函標準断面圖



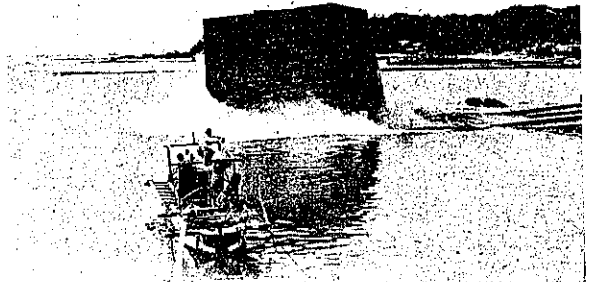
函コンクリート	132.00m ³
中埋コンクリート	215.66 "
中埋土砂	142.22 "
上部壁コンクリート	68.60 "
1 函に加はる總重	1 262.00 "

殘部其他潜函製作工にして、これは豫算の関係上 10 個製作をなして 8 個据付及び中埋工を施工するもの並にその兩側保護用方塊の製作及び据付をなし、更に特大石を以て法面張石工をなすものとす。尙 1 萬圓の埋立工事を計畫す。

田邊町には従來文里、大濱の 2 港ありて本町に集散する貨物の取扱をなし居れり。大濱港は會津川の河口左岸にあり、上流より流出する土砂沈澱の傾向ありて隔年毎に浚渫工事をなし、纔に水深を維持し居る状態なるを以つて直接々岸荷揚し得るは僅に 20 ton 以下の貨物船に過ぎず。

されば田邊町の港灣としては誠に不完全なるものなりとす。又文里港は田邊港の最奥部にありて水深約 6 m の岸壁あり、大阪商船會社の紀州航路急行船並に白良灣通ひの旅客船の發着所として使用せる外 200 ton 前後の貨物船の荷揚所として使用せらる所なれどもその位置町の中心より離れ且つ港内面積僅に 100 ヘクタールに過ぎずして袋

第 4 圖 潜函の進水



形地形をなせるを以て、本町の發展に伴ひ港内面積の擴張を計るには不可能なる所なり。

江川浦は田邊灣に南面し東西北の3方は狭少なから平野によりて圍繞せられたる小灣形をなし、水深は4m乃至7mありて且つ町中心地域と連続し居りて前2港に比して田邊港としては適當なる箇所に在るを以て本所を決定するに至りたるものなり。

3. 工事状況

潜函進水臺は捨石並にコンクリート方塊によりて基礎面を造りその上に木造軌條を取付けて固定臺となせり、この木造軌條には船蟲の喰害を防止するためセトラ油を塗布せり。

軌條面の勾配は1/12より順次急勾配となし、最急は1/4となして干潮面以下6m迄低下せしめたり、固定臺の延長は97mあり、この固定臺の内2箇所に潜函製作臺を設置し、潜函2箇の製作毎に進水をなすものとせり。コンクリート潜函は高さ6.5m、長10m、上幅7m、下幅8m、となせり、これは幅員割合に大なれどもその下部に施工したる捨石が良質のもの得難きを以て波下の憂を尠からしめたるものなり。

本港附近に於ては硬質の割石採掘箇所は殆ど少く、従て割石の價格割合に高價なる所なり、されば總に硬質割石産出箇所として存在する藤島を以て採掘箇所と定め直營を以て採掘作業をなし居るものなり。

西防波堤の構造は以上の潜函を干潮面以下4.5mの面に据付け、その側面は内外共コンクリート方塊にて固めそれより控1m以上の特大石を以て外海側は法面3割に内海側は2割に張石をなすものとす。

尚潜函の上部には場所打コンクリートを施工して干潮面上3.8mに仕上げるものとす、コンクリート方塊の据付作業に對しては15ton捲起重機船を購入し、右方塊の製作所を海岸岩礁上に定めたるを以て右据付作業は割合容易に施工することを得たり。

4. 工事費

工事種類	數量	單價(圓)	金額(圓)	摘要
工事費			545 000	
西防波堤	200 m	1 300.000	260 000	
東防波堤	200 "	700.000	140 000	
護岸	330 "	50.000	16 500	
波漂	114 000 m ³	0.350	39 900	
埋立	114 000 "	0.100	11 400	
雜工事費	19 000 "		19 000	
器械費			42 200	
雜費			16 000	
事務費			55 000	
計			600 000(圓)	

5. 主要材料

品名	數量	金額(圓)	製造, 工作, 販賣, 納入著名	備考
セメント	1 600 袋	1 904.00	大分セメント株式會社	昭和7年度分 上
割石	6 219 m ³	2 457.90	堅田重作	
セメント	1 000 袋	1 190.00	大分セメント株式會社	昭和7年度分 上
米松	64 本	1 316.68	中田喜平	
松板 延長	2 120 m	1 510.04	中西清吉	昭和8年度分 上
丸軟鋼	965 本	1 963.20	山本東作	

丸軟鋼	975 本	1 951.90	山 本 東 作	昭 和 8 年 度 分
同	955 本	1 920.70	同 人	同 上
セメント	1 600 袋	1 938.00	大分セメント株式會社	同 上
松角材	1 550 本	1 440.50	中 西 清 吉	同 上
セメント	1 600 袋	1 888.00	大分セメント株式會社	同 上
同	1 000 袋	1 150.00	同 上	同 上
松角材	16 本	1 071.60	中 田 喜 平	同 上
丸軟鋼	4 785 本	6 549.00	出 來 鹿 男	同 上
セメント	7 000 袋	8 330.00	淺野セメント株式會社	同 上

6. 主要機械器具

品 名	性 能	數 量(圖)	價 格	製造,工作,販賣, 納入者名	備 考
曳船田邊丸	40 馬力	1 隻	2 000.00	近 江 楠 松	昭和7年度分
曳船江川丸	25 馬力	1 〃	1 100.00	西 野 時 藏	同 上
土石運搬船	23 400 kg 積	1 〃	1 655.00	同 人	同 上
同 上	43 400 kg 積	1 〃	1 630.00	福 山 安 二 郎	同 上
同 上	12 000 kg 積	3 〃	1 050.00	堅 田 重 作	同 上
軌條附屬品一式		50 本	1 725.00	中 西 清 吉	同 上
運 搬 車	{1 m ³ 積, 横軸 式鐵製鍋トロ	20 臺	1 020.00	沖 見 政 夫	同 上
6 kg 軌 條		649 間	1 383.90	細 尾 茂 吉	同 上
アイビーム		16 本	1 216.00	坂 口 嘉 兵 衛	同 上
起重機浮艇	15 ton 捲	1 隻	6 500.00	同 人	同 上

7. 工事執行者 和歌山縣
8. 計畫設計者 計畫者 和歌山縣前土木課長 平 川 保 一
設計者 道路技師兼土木技師 奥 山 茂
9. 工事監督者 土木工師 一 色 金 彌
10. 施行方法 和歌山縣直營とし、江川浦字立戸に田邊港修築事務所を設置す。
11. 起工年月 昭和7年11月4日
12. 竣工年月 昭和10年3月31日

東岩瀬港修築工事概要

(本文に就ては會員工學士荒木榮二君の勞を煩はしたり、茲に感謝の意を表す。)

1. 箇所名並に工事種類

富山縣上新川郡東岩瀬町地内、東岩瀬港修築工事

2. 計畫概要、工事狀況

東岩瀬港は富山灣の中部に位し、元神通川の河口に在り、富山市の海門として往時相當殷賑を極めたるも土砂